

はるかな尾瀬

— 目 次 —

- 02 特集① 尾瀬登山道整備ツアー2024
- 04 特集② 尾瀬Instagram投稿キャンペーン『尾瀬フォト2024』
- 06 特集③ 尾瀬の歴史 ～『木道』のはじまり～
- 08 現地情報『番外編』 ブログで振り返る令和6年度シーズン
- 10 令和6年度 尾瀬保護財団の主な活動
- 11 尾瀬ボランティア情報
- 13 寄付者の取り組みのごしょうかい 尾瀬がつなぐ〈こころ〉
- 14 尾瀬保護財団からのお知らせ



2025.3 vol.57
(公財)尾瀬保護財団



2024尾瀬Instagram投稿キャンペーン最優秀賞作品
「空と雲、そして燃ゆる緑の尾瀬」@junimexique

特集① 尾瀬登山道整備ツアー2024

(YAMA LIFE CAMPUS 尾瀬トレイルワーク編)

群馬県環境森林部 自然環境課 尾瀬保全推進室 主事 川上 史歩

はじめに

今年度、群馬県では、利用者が尾瀬の施設の整備や環境保全対策に参加し、保全と利用が持続的に循環する新たな仕組みを構築するため、クラブツーリズム株式会社と連携して一般利用者参加型の登山道整備ツアーを造成。株式会社ヤママップにもご協力いただき、YAMA LIFE CAMPUSの尾瀬トレイルワーク編として開催した。

本ツアーは、8月から10月の3ヶ月にわたり、県が管理する大清水から尾瀬沼にかけての登山道を対象として、オンラインと現地での講習を組み合わせるものとなっている。尾瀬の植生や歴史を学びながら、木道修繕などの保全活動に参加できることが特徴だ。講師は、知識と技術を兼ね備えた一般社団法人尾瀬登山道整備部の館山美和氏と小林慎治氏に依頼をした。主催者側の立場ではあるが、本ツアーについて参加者の感想をまじえながら紹介をしていきたい。

ツアーへの参加動機

ツアー参加者は8名(男女各4名)。年代は30代〜60代と幅広く、県外からは、千葉、東京、神奈川、静岡、京都と遠方からも参加があった。

参加の動機は、「登山道を直すという文化に興味を持って」「登山道の整備は大変そうだと感じて」「木道を自分でどのよつに直すのだろうと思う」

た「尾瀬に行く機会を探していた」「社会貢献をしてみたい」などとさまざま。それぞれ異なる視点を持ちながらも、SNSなどを通じてツアーを知り、「せっかくの機会だから」と好奇心をきっかけに参加している点は一致していると感じた。登山道整備というニッチなツアーだとは思いますが、参加者のほとんどが日頃から登山を趣味としており、興味を持っていたのだ。

第1回(8月)尾瀬を知り、みんなで整備を考える

8月17日〜18日のフィールド講習では、整備場所の確認や尾瀬の登山道の歴史を学び、さらに尾瀬沼を一周して自然観察を行った。参加者同士が対面で顔を合わせるの初めてだったが、事前のオンライン講習が2回あったこともあり、すぐに打ち解けた。参加者同士の相性も良さそうであり、3ヶ月にわたる長いツアーでもあるので安心をした。

本ツアーでは、Facebookグループを活用し、ツアーの案内や交流を行う。第1回目のフィールド講習後には、次回の整備に向けてどのような整備方法が良いか、参加者たちが自ら資料を作成し、活発に議論を広げた。その積極的な姿勢に驚くとともに、今後の活動がさらに楽しみになった。

第2回(9月)外来種駆除と水場(排水)整備

9月14日〜15日のフィールド講習では、岩清水の水場整備と十二曲がり手前のエニシダの駆除を実施した。整

備に使う資材や道具も自分で運び、それぞれの体力に応じて荷物を分担し、整備場所へと向かった。

まずは、岩清水の水場整備から。岩清水の排水路であるが、木柵の下が朽ちており、水が漏れ出してしまっていた。ここは休憩する人が多いポイントでもあり、水漏れを抑えたかった。もともとの排水路は土台として残り、一度石を全て取り出して整地。木材を使ってU字溝のようなものを作成し、内側に重ねた。最後にゴムシートを敷き、石を戻して仕上げた。



資材や道具を運ぶ様子



水場整備前



水場整備後

エニシダについては、根元近くから伐採を実施。法面が崩れるリスクを考慮し、根元を残すことにした。伐採したエニシダは束ねて手分けをし、背負って運び降ろした。根は残っているためエニシダはまた成長す



エニシダ駆除前



エニシダ駆除後



草木染め

るが、伐採したことにより、周辺の環境も変わる（周辺の植物が生えてくる）ので、来年度以降は経過観察を行い、どのように対応するかを考えていく。また、駆除しただけで終わらせず、草木染めを行い、その材料としてエニシダを活かした。

岩清水の整備後には、補強で板を張った部分をベンチ代わりにして活用する人や水漏れが抑えられた場所にシートを敷いて休憩する人もいたとのこと。

第3回（10月）木道修繕・もっと美しい尾瀬に

10月25日～27日のフィールド講習では、実際に自分たちが歩く三平峠から南の木道修繕を実施した。劣化の著しい木道が複線の左右に点在していたため、右側通行で下り傾斜となる片側に状態の良い木道が並ぶようにする。スリングを使用して敷板を入れ替え、もつ片側には残った敷板を細かく敷き詰めることで通行できる状態にした。ノコギリでの切断、銚子による固定、滑り止めの桟木打ちなど、参加者にとっては非日常的な

体験だったのではないかと感じる。実際、参加者からは以下のような感想があった。

- ★「自然の中で身体を動かしての作業が良かった」
- ★「直接歩く木道を直すことがとても新鮮で良かった。整備後の写真を見て改めて凄いことをしたなと実感できた」



入れ替えを行う様子

- ★「一部ではあるが尾瀬の役に立てて良かった」など。また、登山道整備の必要性についての声もあった。
- ★「登山道はこのようにメンテナンスをしていかないとボロボロになってしまうのだなと当たり前のことが感じた」

- ★「登山道を維持していくという大変さと、それに携わっている方の働きのおかげで、山で遊ばせてもらえていることを感じた」
- ★「補修できないような地域はどうなんだろうという心配を感じている」
- ★「ここに木道を作るのが本当に必要なのかどうか、環境的にどうなのか、登山道に関心を持つ人を少しずつ増やしていくのが大切だと思った」など。

非日常を味わうとともに登山道について新しい視点や興味関心を持つ良い体験になったようだ。

ツアーを通しての感想

最後のオンライン講習では、参加者から3ヶ月間のツアーを通しての感想をいただいた。

★「同じ場所で見える景色が月ごとに変わるというのが印象的で楽しかった」

★「他の参加者と話をして気づけなかった視点を知る事ができて良かった」

- ★「誰かが地道な整備をしないといけないことを実感した」
- ★「想像以上に得るものも多かった」
- ★「色々考える機会をもらえて良かった」
- ★「周りが真剣に考えている姿を見て自分も影響を受けた」など。

また、「このような機会があれば（尾瀬に限らず）参加していきたい」という声も多かった。

群馬県としての初の試みであり、どのような結果になるかは終了するまでわからない状態であったが、有意義なツアーになったと感じる。

さいごに

本ツアーを実施するにあたり、登山道整備はもちろんではあるが、楽しんでもらうことが一番大事だと考えていた。参加者とともに活動をし、自分自身も含め、登山道の見方が変化していくのを感じることができた。ただ作業をすることだけを考えたら苦痛なものだったかもしれないが、尾瀬について学び、自然観察をし、新たな視点を持つことや、その視点を持ちながら自分たちで整備について考え作業することは、楽しさにも繋がったのではないだろうか。

近年、利用者自身が登山道整備に関わる動きが広がりつつある。本ツアーに限らず、登山道整備に参加した人々が、自分たちが整備した場所に愛着を持つとともに、登山道について考える「発信者」となってくれたら嬉しい。そして、その輪が広がり、登山道に関心を持つ人々が増えていくことを願っている。

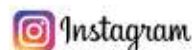
2024尾瀬Instagram投稿キャンペーン 入選作品をご紹介します！

2024年5月11日～10月31日に実施した尾瀬Instagram投稿キャンペーンでは、3,000件を超える応募をいただきました。応募作品の中から、最優秀作品1点、優秀作品4点、入選作品10点を選出しましたのでご紹介します。

なお、Instagramで「#尾瀬フォト2024」を検索すると、その他の素敵な応募作品がご覧になれますので、ぜひチェックしてみてください♪



#尾瀬フォト2024



空と雲、そして燃ゆる緑の尾瀬

@junimexique

撮影日：2024/8/20
撮影場所：牛首分岐付近

何年ぶりかの尾瀬を歩いてきました。
夏らしい青と白、緑のコントラストが
美しい景色でした。

優秀作品 4点



池塘の白虹

@mudhony2

撮影日：2024/10/2
撮影場所：中田代付近

撮影時まで白い虹の存在は知らず、近くにいたお婆さんから大変珍しいものと言われ驚きました。朝霧の中、池塘の上にかかった虹はとても幻想的で消えるまでずっと見てしまいました。初めての尾瀬でこの景色に出会えたのは、本当に幸せだったと思います。



おはよう尾瀬

@kmd_nasa

撮影日：2024/7/7
撮影場所：山ノ鼻と牛首分岐の間

テント泊で夜を越し、「早起きは三文の徳」とばかりにカメラを持って薄暗い中、尾瀬ヶ原の散策に出かけました。朝霧がやがて晴れ、遠くの燧ヶ岳から、眩しい太陽が顔を出しました。尾瀬日和になりそうな一日の始まりに感動です。



尾瀬、夏色に染まる 撮影日：2024/7/13
撮影場所：大江湿原

@yasutsugutsutsumi

尾瀬の美しさに魅せられ、季節ごとに通うほか、防鹿柵のボランティアにも参加し、通算上山は165回を超えました。写真は、防鹿柵の効果で植生回復傾向にある大江湿原のニッコウキスゲの美しさを伝えたく、撮影したものです。



尾瀬の妖精との出会い 撮影日：2024/9/6
撮影場所：尾瀬沼山荘周辺

@marinesnow1990

家族旅行で初めての尾瀬へ。4歳の息子と6か月の娘は、しばらくの間かくれんぼをするオコジョを見ながら、キャッキョと戯れていました。忘れられない自然体験は、尾瀬の大自然を感じるひと時となりました。

入選作品 10点



晩秋の尾瀬 撮影日：2024/10/20
撮影場所：燧ヶ岳（姫岳）

@tqkqkun

雨・濃霧・爆風を抜けた先に見た風景。霧氷がとても綺麗でした。



夕焼け空と原 撮影日：2024/9/30
撮影場所：竜宮十字路付近

@midollyogu

朝は濃霧の中、午後からは晴れ間も見えてきました。至仏山の全容は諦めていたところ、思いがけず夕陽を背にしたお山のシルエットを見ることができました。



僕の世界

撮影日：2024/7/26
撮影場所：尾瀬ヶ原

@chikichiki_camp

小学1年生になり、自分の荷物を持って鳩待峠から見晴の小屋まで片道5時間かけて歩きました。途中自分の背丈ほどの草の中を歩く時もあり、まるでトンネルを潜っているような気分。また数年後同じ道を歩いた時、違った景色を感じる事ができるかな。

黄金色の道 撮影日：2024/10/14
撮影場所：上田代辺り

@imomin.photo

朝霧で何も見えない中、突如として朝日が差し込み、霧が晴れ、草紅葉が朝日に照らされ黄金色になる瞬間を撮った一枚。尾瀬の秋がまた見たくなる。そんな美しい景色でした。



赤橙色の世界 撮影日：2024/10/13
撮影場所：牛首分岐と東電小屋の間

@manmaru_norio

陽の光を浴びて赤橙色に輝く草紅葉とその後ろにそびえる燧ヶ岳が美しかったです。



朝焼けの燧ヶ岳 撮影日：2024/8/1
撮影場所：見晴

@ejtt_ntf

静寂の中、朝霧が立ち込める尾瀬ヶ原。その彼方に浮かぶ朝焼けの燧ヶ岳。刻々と移りゆくその姿は、いつまでも眺めていたくなる美しい景色でした。



夏と秋の間 撮影日：2024/9/14
撮影場所：牛首分岐と竜宮十字路の間

@oboh0202

夏が過ぎてまもない初秋の尾瀬、その季節の狭間でさえ美しさを保つ尾瀬ヶ原に感動しました。燧ヶ岳を正面に歩く中、ふっと後ろを振り返った時に見えた名峰至仏山と池田にも映るその姿、その瞬間を切り取りました。



黄葉

撮影日：2024/10/21
撮影場所：大江湿原

@nanatsunoirodory

尾瀬沼に白鳥がやってきていた10月後半、暖かな陽光が湿原や山を照らし、色味あふれる秋の尾瀬の美しさに息を呑みました。そして、樹木の落葉も進むなか、三本カラマツが色づき始め、冬に近づく尾瀬を感じ、撮影しました。



月に照らされて尾瀬 撮影日：2024/5/18
撮影場所：弥四郎小屋前

@haku0508

尾瀬は子供の頃 父に連れられて何度となく訪れた場所です。山に登るきっかけになった尾瀬は父がいなくなった今でもたまたま帰れる場所です。



尾瀬からの贈り物

撮影日：2024/6/11
撮影場所：東電小屋

@etchan_simosimo

バースデーハイク☆1番嬉しかったのは、ずっとみたかった『白い虹』が目の前に♪最高の贈り物をいただきました！

特集③ 尾瀬の歴史

『木道』のはじまり

企画課 宇野 翔太郎

尾瀬と言えば、ミスバシヨウとともに思い出されるのが「木道」ではないでしょうか。湿原を歩き易くするために考えられた木道は、現在では尾瀬の風景の一部にもなっています。

本記事では、そんな尾瀬の「木道」の歴史についてご紹介します。

1. 木道のはじまり

尾瀬における木道の始まりは、1952（昭和27）年に前橋営林局山口営林署

（現・関東森林管理局会津森林管理署南会津支署の前身）の吉成 一郎技官が発案した「特殊歩道」を尾瀬沼畔の大江湿原に設置したことが始まりです。

はるかな尾瀬（朝日新聞前橋支局、1976）では、『前年の（昭和26）年、林野庁から局長、部長クラスが尾瀬を視察に訪れたのが、木道誕生のきっかけになった。視察があつたのは、ちよつと7月の梅雨のシーズン。雨期の湿原を歩くのは、泥田の中をはい回るようなものだ。全員、腰までつかつたり、転倒したり、散々な目にあつた。当時、山口営林署技官として視察の案内をしたのが現在、栃木県日光市に住む吉成 一郎さ

ん（当時56）。「これはひどすぎる。何とかもつと快適に歩ける方法はないのか。」（中略）翌27年から3年間「特殊歩道」の名目で、毎年100万円の予算がついた。「当時は、一口に尾瀬3万人（年間）といっていたんですけど、湿原でドロドロになる登山者の不満がようやく強くなりはじめた。とくに年配の方の中には、もう尾瀬は「リリリ」という人が多く、こりゃ何とかしなければ、と思っていたところでした」と吉成さん。』と紹介されています。

2. 木道がなかった頃の尾瀬

当時の湿原の歩きにくさについては、先人たちの体験談が様々な書籍で紹介されており、その苦労が偲ばれます。小屋主の語る尾瀬の秘話（益子昌、1978）では、「昔その木道がなかったときは、わらじばきでひざまで水につかり、泥まみれになって湿原を探勝した」。尾瀬：私の手帖から（堀正一、1979）では、「ぬかるみを歩くので、泥炭の汁が衣服にしみついて、洗っても洗ってもとれなかった」と紹介されています。その後1958（昭和33）年には、尾瀬林業株式会社（現・東京パワーテクノロジーズ株式会社環境事業部尾瀬林業事業所の前身）によって、尾瀬ヶ原に丸太木道が約3kmにわたり設置されています。

3. 初めの頃の木道

単線の木道では、すれ違う際にどちらか一方が湿原に下りなければならぬ状況でした。そのため、昔はジャンケンでどちらが下りるか決めていたこともあるようです。尾瀬の語りべ（松浦和男、2022）では、「今の木道は人がすれ違えるように2本の板が並行に敷かれているが、当初の木道は1本だけだった。前からハイカーがやって来ると、どちらが道を譲るのかをジャンケンで決めて、負けた方が木道を降りるといふルールがあった。尾瀬ヶ原を渡り切るまでに何度も何度もジャンケンをしていた。」と当時の様子が紹介されています。

また、写真2を見ると、木道の設置が始まったとは言っても、まだまだ自由



写真1 1952（昭和27）年8月 湿原にはまった登山者



写真2 1960(昭和35)年6月 尾瀬ヶ原・見晴

に湿原を歩いている人が多いことが分かります。その理由としては、単線の木道ですれ違いが難しかった、また現在のよう
に木道の上を歩くという意識や重要性が十分に定着していなかったことが考えられます。写真2中央下にある黒くなつた湿原は、登山者に何度も踏まれたことで湿原が壊れてしまった場所です。木道を歩くことが定着した現在では、こうした場所は見られなくなっています。

4. 現在の木道

現在は、多くの場所で複線の木道が整備され、その工法などにも様々な工夫が見られています(ワイド木道、高架木道、組み合わせ方など)。ぜひ尾瀬を訪れた際は、そんな工夫にも着目していただくと嬉しいですよ。また、木道それぞれに管理者が決まっており、それぞれの管理者によって定期的に整備されています。

こうした尾瀬に欠かせない木道ですが、車が入れない尾瀬では、運搬をヘリコプターで行うなど、整備に多くのお金が必要になっています。はるかな尾瀬(朝日新聞前橋支局、1976)では、「インフレのあおりで、木道の建設コストも年々上がる一方だ。たとえば(昭和34)年、群馬県が竜宮一山ノ鼻に敷いた木道は1メートル500円ですんだのに、現在は1メートル8千円から1万円。間もなく「ひとまたぎ1万円」を超えるだろう。」と紹介されています。

木道整備のコストについては、近年では1メートル20万円とも言われており(※)、この約50年でコストがどれだけ上がっているのかお分かりいただけるかと思えます。こうしたコストの問題は、木道整備を進める上で大きな課題になっており、その他、山の中の力仕事ということもあり、木道整備の担い手確保なども課題になっています。

こうした課題を踏まえ、近年では木道等のあり方の検討や新たな取り組み(本誌特集①など)が尾瀬の関係者によって進められています。

※第22回尾瀬国立公園協議会議事録(環境省、2024)



写真3 尾瀬ヶ原・竜宮



写真4 ヘリコプター輸送された木道資材

り返る令和6年度シーズン

山の鼻ビジターセンターより
尾瀬ヶ原の様子

2024年
5/22



東電尾瀬橋付近のミズバショウの群生

山の鼻ビジターセンターより
本日開所しました

2024年
5/14



登山者や尾瀬に関わる皆様の安全を祈念しました。

尾瀬沼ビジターセンターより
残雪と花の会津駒ヶ岳

2024年
5/28



キリンテからの登山道は、美しい沢の流れを聞きながらの登山となります

尾瀬沼ビジターセンターより

2024年
5/24



尾瀬沼周辺が青やピンクオレンジのグラデーションに包まれました

山の鼻ビジターセンターより
アヤメ平～長沢新道の様子

2024年
6/18



アヤメ平ではワタスゲの群生が見られました

尾瀬沼ビジターセンターより
朝霧の大江湿原

2024年
6/8



展望テラス付近に咲くサンカヨウは満開です

現地情報「番外編」

ブログで振

尾瀬沼ビジターセンターより
3連休直前!ニッコウキスゲの様子

2024年
7/12



雨露に濡れるニッコウキスゲ
第二大江橋～小淵沢田代分岐間にて

尾瀬沼ビジターセンターより
雨で潤う尾瀬沼

2024年
6/23



湖面は空の色を写して輝いていました。長英新道の雪は、すっかり無くなっていました。

尾瀬沼ビジターセンターより
野鳥の集う尾瀬沼

2024年
8/19



白いダイサギ、アオサギ、マガモ、黒いカワウも隠れています。1カ所に4種類の鳥が集まっているのを見ると、尾瀬の自然の豊かさを感じます。

山の鼻ビジターセンターより
山ノ鼻周辺の様子

2024年
7/23



今朝は朝霧がかかり、尾瀬ヶ原入口で至仏山を大きく囲む白い虹を見ることができました。

尾瀬沼ビジターセンターより
寂寥たる尾瀬沼

2024年
10/30



大江湿原に虹が架かりました。自然の織りなす絶景に、しばし目を奪われました。

尾瀬沼ビジターセンターより

2024年
10/21



(初冬)今朝マイナス4.8℃を記録し、今シーズンで最も寒い朝を迎えました。大江湿原は霜で真っ白になっていました。

山の鼻ビジターセンターより
尾瀬ヶ原・平滑ノ滝の様子

2024年
9/24



尾瀬では、朝晩冷え込むようになり、草紅葉もだいぶ進んできました。竜宮～ヨッピ吊橋間や下ノ大堀川ビュースポット周辺では、ヤマドリゼンマイの草紅葉が見事です。

令和6年度尾瀬保護財団の主な活動

- 4月 12日 至仏山残雪期調査実施
- 5月 10日 尾瀬ガイド協会理事会に出席 (web)
- 11日 尾瀬沼ビジターセンター開所
- 11日 尾瀬Instagram投稿キャンペーン募集開始 (～10月31日まで)
- 12日 山ノ鼻ビジターセンター・研究見本園でツキノワグマ対策研修を開催
- 14日 尾瀬山の鼻ビジターセンター開所
- 15・16日 研究見本園シカ柵設置ボランティアツアー実施
- 24日 外来植物 (ハルザキヤマガラシ) 駆除作業実施 (津奈木-鳩待峠間)
- 6月 3日 林野庁による大江湿原シカ柵設置作業に参加
- 6日 尾瀬保護財団第46回理事会 (定時・群馬県庁+webのハイブリッド)
- 13日 至仏山東面登山道整備 (柵立て) 実施
- 22・23日 尾瀬フェア開催 (東京都昭島市 モリパークアウトドアヴィレッジ)
- 24日 尾瀬保護財団第22回評議員会 (定時・群馬県庁+webのハイブリッド)
- 29日 尾瀬ボランティア講座 (講義/群馬県庁+webのハイブリッド開催)
- 7月 5日 ツキノワグマ対策協議会によるテンマ沢湿原と研究見本園入口の刈り払い作業参加
- 10・11日 福島県尾瀬地区植生復元調査実施
- 20日 尾瀬ボランティア講座 (現地研修/山ノ鼻)
- 21・22日 福島県尾瀬保護調査会調査補助 (オランダガラシ駆除)
- 27日 外来植物 (オオハンゴンソウ) 駆除作業実施 (小沢平)
- 8月 11日 インスタグラム フォロワー1万人達成
- 25日 ありがとう尾瀬清掃活動実施 (尾瀬沼)
- 31日 尾瀬自然解説ガイド養成研修開催 (講義)
- 9月 7日 尾瀬自然解説ガイド養成研修開催 (現地実習)
- 18日 ツキノワグマ生息状況等に係るミズナラ豊凶調査実施
- 28日 ありがとう尾瀬清掃活動実施 (尾瀬ヶ原)
- 10月 3日 外来植物 (オオハンゴンソウ) 繁茂状況調査 (小沢平)
- 8日 ありがとう尾瀬清掃活動実施 (尾瀬沼)
- 8・10日 ツキノワグマ生息状況等に係るブナ豊凶調査実施
- 11日 研究見本園シカ柵格納ボランティア作業実施
- 17日 ありがとう尾瀬清掃活動実施 (尾瀬ヶ原)
- 17日 尾瀬・日光国立公園ニホンジカ対策広域協議会に出席 (web)
- 24～28日 ぐんまフェア出展 (イオン太田)
- 24日 至仏山東面登山道整備 (柵倒し) 実施
- 26日 林野庁による大江湿原シカ柵撤去に参加
- 26・27日 ぐんま山フェスタ出展 (ビエント高崎)
- 31日 尾瀬山の鼻ビジターセンター閉所
- 31日 尾瀬沼ビジターセンター閉所
- 11月16日 ぐんま環境フェスティバル出展 (群馬県庁)
- 28～29日 令和6年度第1回冬期調査実施 (山の鼻ビジターセンター)
- 12月12日 尾瀬ガイド協会理事会に出席 (web)
- 1月 21日 尾瀬国立公園利用アクションプラン検討小委員会に出席 (web)
- 2月1・2日 ふくしま尾瀬情報発信イベントに出展 (東京都豊島区 池袋駅構内)
- 8日 自然解説ガイド連絡会議 (前橋市・前橋市民文化会館)
- 8日 尾瀬ボランティア総会 (前橋市・前橋市民文化会館)
- 3月 7日 至仏山保全対策会議開催
- 10日 尾瀬国立公園協議会に出席
- 17日 尾瀬国立公園ツキノワグマ対策協議会開催
- 26日 尾瀬保護財団第48回理事会 (定時・群馬県庁+webのハイブリッド)

尾瀬ボランティア活動紹介

このコーナーでは、尾瀬ボランティアの活動を紹介します。

尾瀬ボランティアは、「尾瀬の保護と適正利用の推進」を目的として、ボランティアと財団が共通目的の達成に向けて、平成8年に結成された尾瀬保護財団が支援するボランティアの団体です。現在、285名の方が登録し、活動を展開しています。



●尾瀬ボランティアの活動の魅力

- ・尾瀬の美しい自然を守りながら、自然の魅力を体感できます。
- ・ボランティアを通じて、尾瀬の環境保護や地域貢献に参加できます。
- ・ボランティア同士の交流を深め、仲間と共に活動できます。

●尾瀬ボランティアの具体的な活動

自然保護的活動

1. 入山者への啓発活動

尾瀬ボランティアの中心的活動として、入山口や施設前でマナーや自然情報を提供し、入山者に対する自然保護意識を高めます。

2. 巡回美化（清掃）活動

尾瀬各所を広く巡回して、ゴミなどを拾いながら尾瀬の美化活動を行い、ゴミ持ち帰り運動を実践します。

3. 自然環境保全活動

尾瀬の植生に影響を与える外来種を除去するなど生態系保護のための作業を行います。また植生保護柵の設置と撤去の作業を補助しています。



自然解說的活動

「お話ボランティア」や「環境学習ミニガイドツアー」や「尾瀬自然解説ガイド」を通じて尾瀬の自然や歴史について解説し、入山者への理解を深めます。

●尾瀬ボランティアへの登録と更新について

尾瀬ボランティアとして活動するためには、登録の申込後、尾瀬ボランティア研修（講義・現地）を受講します。登録後の更新期間は2年間となっており、令和7年3月末が更新のタイミングに当たります。次回更新は令和9年3月を予定しています。

インタープリテーション研修に参加し、自然解説活動を行なってみませんか？

尾瀬ボランティアとして自然解説活動を行うために、インタープリテーション（自然解説）研修を開催します。

この研修は尾瀬で2泊3日の日程で実施し、自然のしくみをより分かりやすく他者に伝える知識や技能を高めることを目的としており、尾瀬ボランティアの方はどなたでも、何度でも参加することができます。充実した研修を通じて、尾瀬の自然の学びと参加者同士の交流を深めませんか。2年に一度の開催となりますので、ぜひこの機会に多くの皆様からのご参加をお待ちしています。

（開催概要） 開催日：令和7年9月6日（土）～9月8日（月）2泊3日 会場：尾瀬沼地区 募集定員：20名
・インタープリテーションや環境教育についての講義 ・ガイドウォークプログラムの体験
・尾瀬でのガイドプログラムに適したフリップ資料作成 ・解説コミュニケーション実習
※詳細は、後日ボランティア証発送の際に同封する案内をご覧ください。

前回実施時（令和5年）の研修のようす



ガイドウォーク体験



講義・フリップ資料の作成



自然解説活動実習

第28回尾瀬ボランティア総会開催レポート

2月8日(土)に昌賢学園まえばしホールにおいて第28回尾瀬ボランティア総会を開催しました。30名の尾瀬ボランティアが参集し、令和6年度の活動の振り返りと次年度の活動計画案の説明を行いました。本年度活動された方より映像をまじえた活動報告をいただくなど、活動のようすを参加者にわかりやすく伝えていただきました。班別討議では7つの班に分かれ、「尾瀬ボランティアの活性化」をテーマに、「現状と課題」、「改善提案」について参加者の意見交換を行いました。討議を通じてボランティアの交流を深めるとともに、総会後の交流会も多くの方から参加をいただき、絆を深めることができました。実施内容と班別討議の要旨を報告します。

<総会の内容>

1. 令和6年度 活動実績報告
2. 令和7年度 活動計画(案)
3. 班別討議
テーマ「尾瀬ボランティアの活性化」



現状と課題

- 活動者数が減少しており、実際に活動をしているボランティアが固定化されている傾向がある。
- 尾瀬ボランティアの活動基盤の一つである入山口啓発活動への参加者が少ない。
- ボランティア同士の交流が年々少なくなっており、現地でのボランティアの情報交換の機会が少ない。
- ボランティアの活動内容・計画についてマンネリ化しており、活動の内容・時期など工夫が必要。
- ボランティア活動を実施した後の活動報告に手間が掛かっている。
- 尾瀬ボランティアの活動実施状況について、ボランティアのホームページへの掲載が少ない。
- ビジターセンター職員と尾瀬ボランティアの間のコミュニケーション・交流不足している。
- 尾瀬ボランティアの募集期間が限定的となっており、登録まで時間がかかっている。

活性化に向けた改善策・提言(一部抜粋)

★ 活動活性化に向けて

- 入山口啓発活動の重点日を設けて、できるだけ多くのボランティアが参加できるようにする。
- ベテランボランティアがコーディネーター役を担い、新しいボランティアをフォローする。
- 活動終了後に、参加したボランティア同士、ビジターセンター職員が交流する場を設ける。
- SNSや掲示板などを活用し、尾瀬ボランティア間の情報交換を活発化させて、活動の見える化を進める。
- ボランティアの笑顔とあいさつを大切に、ボランティア同士が顔見知りになる。
- 尾瀬ボランティア全体にアンケートを実施して、ボランティアが参加しやすい状況を把握する。
- インターネットフォームなどを活用して、活動報告をより簡単に行えるようにする。

★ 尾瀬ボランティアの裾野を広げるために

- 尾瀬ボランティアのPRリーフレットなどを作成し、ビジターセンターや登山用品店などに置いてPRする。
- ボランティア募集期間を広げて応募しやすくし、登録者数を増やす工夫をする。
- 財団が尾瀬ボランティア育成プランをつくり、尾瀬ボランティアの研修を進める。



令和6年度活動報告



班別討議での議論

班別討議でいただいたご意見・ご提言を参考にし、さらに充実した尾瀬ボランティアの活動が展開できるよう、検討していきたいと思っております。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました！

令和6年12月、関越自動車道の魚沼(旧：小出)インターチェンジを下りると、道路わきや田んぼに雪が目立つようになった。ガードレールには赤と白のしまもようのスノーボールが結びつけてあり、このあたりの雪深さをうかがわせる。

今回、私が取材のためにおとすれたのは、新潟県魚沼市立須原小学校。それぞれまじりの雨がふり、底冷えのする屋下がりだったが、校内は児童のみなさんの笑顔と活気にあふれており、ろうかでも、すれちがいざまに「こんにちは！」と元気にあいさつをしてくれた。

財団あて、須原小学校5年生のみなさんから〈尾瀬の自然を守る活動に役立ててほしい〉としてご寄付をいただいたのは、11月のこと。魚沼市がサポートする「魚沼から行く尾瀬」環境学習プログラムを活用して尾瀬を訪れた児童のみなさんが、尾瀬について理解を深め、クラス全員で育てたお米を地域の方々に販売して、その収益を寄付する、という取り組み。この取り組みは同校教諭の永山豊先生が、3年前から、毎年、先生の赴任校で続けてくださり、このかたちでのご支援は今回が3回目である(1回目は魚沼市立宇賀地小学校、2回目は魚沼市立小出小学校から、ご寄付をいただいた)。



児童のみなさんとそれを支える先生や保護者、地域の方々のあたたかい〈こころ〉が何より嬉しく、取材にうかがった。当日は、5年生12人(女子4人・男子8人)のうち、4人の児童からお話を聞くことができた。

5年生は7月4日～5日、夏の青空の下、魚沼ルートで尾瀬に入り、2つの班に分かれて尾瀬沼を歩いて、山小屋に1泊したという。

「鳥の音が聞こえたり、班のみんなまで歩いたのが楽しかった。」と、尾瀬での思い出を語ってくれたのは、齊藤快さん。クラスのみなさんでのね泊まりも、班別行動も新せんだったようだ。

「めずらしいこん虫がいて、うれしかった。」と、目をかがやかせて教えてくれたのは、川又颯太さんだ。夏休みの工作ではこん虫標本の大作を作り上げて提出するほど「むし博士」なのだという。みな、自分の興味があることを掘り下げて、各々の視点から学びを深めた。

学習の前後、春～秋にかけては、クラス全員でお米づくりをした。



山田ののかさんは、「(お米づくりを) みんなで協力してできたのがよかった。」と、ほねの折れる田植え、収かく作業を思い起こしながら、感想を聞かせてくれた。

佐藤季依さんは、「(田んぼには) アメンボやヒルがいて、おもしろかった。」と、はだして入ったどろ田のぬかるみの不思議な感じよくと、そこに息づく生きものについて、教えてくれた。

収かくを終えた10月27日には、地域の商工祭で、尾瀬と米づくりのクイズ、ダンス(ステージでおどり)、お米のはん売会をもよおした。お米はクラス全員でふくらづめし、1kg500円として162ふくろを用意。かん板を持ってよびこみをする係、お金をもらう(おつりをわたす)係、お客さんにお米をわたす係の3つに分かれ、見事なチームプレーをみせて、なんと10分間で完売させたという。



「売り切れてうれしかった！」と、顔をほころばせ、4人とともに、ほこらしい気持ちを言葉にしてくれた。

児童のみなさんへの取材を終えたあと、永山先生にもお話をうかがった。

「はじめは〈作文〉が苦手だったこともたちが、運動会、尾瀬学校、商工祭と、行事ごとに気持ちを書きおこすことによって、自分を主人公にして、自分の言葉で気持ちを表現することができるようになってきた。」



尾瀬というフィールドでの学習をひとつのきっかけに、ポスターをつかって発表したり、げきを考えてみんなで演じたりするなど、ただ単に「自然がきれいだった。」に終わらせない、先生方と児童のみなさん、それぞれの努力がにじんでいる。国語、理科、社会、総合学習の教科のわくをこえて、尾瀬がみんなの〈こころ〉をはぐくみ、つながる。

須原小学校は山あいの自然豊かな場所にあり、児童も少人数だ。5年生は、保育所からいっしょだった子も多く、はずかしがり屋で「外の人」とおはなしをするのは少し苦手。今回の取材にも不安を口にしていたというが、きん張に少し顔をこぼらせつつも、私の質問に、ゆっくりと、言葉を探しながら答えてくれる児童のみなさんの、自分の〈こころ〉にひびいたことをととつと言葉にする姿に、感じ入った。

寄付金とともにみなさんの〈こころ〉を受け取り、尾瀬を守りつぐために最良となる取り組みを模索しながら、今日も努めていこうと、気持ちを新たにした一日だった。(p.14のコラム欄に続く)(記事：峯岸 梢)

※この記事は、小学校5年生までに学習する漢字を用いています。学習範囲を超える漢字を用いる場合には、ふりがなを付しております。ひらがなが多用されていることにより読みづらい部分もございますが、ご理解をいただきたく、お願いいたします。



寄付のお願い

— 美しい尾瀬を未来に引き継ぐために、
皆さまからのご支援をお願いします —

尾瀬保護財団は、尾瀬国立公園をフィールドに「尾瀬での体験と感動を、自然を守る力に変える」をミッションに掲げて関係者と連携しながら、さまざまな活動を展開しています。
当財団の活動は、皆さまからのご寄付によって支えられています。

■ **所得税、法人税、個人県民税、個人市町村民税について** 尾瀬保護財団へ寄付をすると優遇措置が受けられます。詳しくは、当財団ホームページをご確認ください。

※所得税・法人税の詳細については最寄りの税務署に、県民税・市町村民税については、お住まいの都道府県・市町村にお問い合わせください。

■ **特別協賛寄付・協賛寄付について** 企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度を設けています。

■ **寄付の方法** 当財団へご寄付いただく場合は、財団事務局へご来訪いただくか、ご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通 1078095
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通 0515428
新潟県	第四北越銀行県庁支店	普通 1182791

※振込手数料は寄付者のご負担となります。何卒ご了承ください。

※以下の口座を廃止いたしました。お振込の際には十分ご注意ください。

- ・大東銀行福島支店口座
- ・福島銀行本店営業部口座
- ・東和銀行本店営業部口座
- ・第四北越銀行(旧北越銀行)新潟県庁支店口座
- ・大光銀行新潟支店口座

■ 注意事項

ご寄付の受領後、領収書等を作成・送付させていただきます。

ご住所及びご芳名が不明な場合、必要書類をお届けすることができません。必ず財団事務局へご一報ください。

■ **お問い合わせ先** 公益財団法人尾瀬保護財団事務局（寄付担当） TEL：027-220-4431 Mail：info@oze-fnd.or.jp

魚沼市立須原小学校5年生のみなさんから、ご寄付をいただきました

令和6年11月、魚沼市立須原小学校5年生のみなさんから、ご寄付を賜りました。

「魚沼から行く尾瀬」環境学習プログラムによる尾瀬学習をきっかけに、尾瀬の自然に関心を持った児童のみなさんが、地域の自然である稲田でお米づくりを行い、収穫米を販売して、その収益を寄付金として届けてくれました（本誌p.13の記事も併せてご覧ください）。



●●●●● 魚沼市立須原小学校について ●●●●●



新潟県魚沼市須原地区、日本二百名山の一つである守門岳のすそ野に立地する小学校。明治6年6月1日に開校し、令和5年度には開校150周年を迎えました。令和6年4月1日現在の児童総数は83人で、1学年10～20人編成。少人数学級の特性を活かし、学年の枠を超えて縦割り行事を組み、保護者や地域の方々との交流も深く、わきあいあいとした校風が特徴。歌人俳人の宮柊二のふるさとで、短歌大会で多数入選するなど、こどもたちは日頃から短歌や俳句に親しんでいます。
(令和6年12月、今年度から同校に着任している吉田卓司校長先生からお話を伺いました。)

特別協賛寄付者のご紹介 ※令和7年2月28日現在、五十音順、敬称略

あいおいニッセイ同和損保
MS&AD INSURANCE GROUP
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社
通算寄付額 6,396,790円

糸井商事
糸井ホールディングス
糸井商事株式会社
通算寄付額 10,800,000円

心の産業グループ
エコ計画
環境・食・貢献をテーマに！
株式会社エコ計画
通算寄付額 9,000,000円

「運ぶ」を支え、環境と未来をひらく
ISUZU
関東いすゞ自動車株式会社
通算寄付額 1,200,000円

群馬トヨペット
群馬トヨペット株式会社
通算寄付額 2,449,230円

一生のパートナー
第一生命
Dai-ichi Life Group
第一生命保険株式会社群馬支社 通算寄付額 2,823,820円



Asset Management
One

アセットマネジメントOne株式会社
通算寄付額 45,008,249円

投資の力で未来をはぐくむ

尾瀬紀行

尾瀬紀行(信託ファンド)で収受した信託報酬の一部をご寄付いただいております。平成19年より今回が18回目のご寄付となります。

通算寄付額 90,016,497円



群馬銀行

株式会社群馬銀行
通算寄付額 40,660,920円

(※) 尾瀬紀行(くんざん証券様分)、横断橋寄付、くんざんSDGs私募債、株主優待制度「寄付コース」、その他財団設立当初の一般寄付を含む。



第四北越銀行

DAISHI HOKUETSU BANK

株式会社第四北越銀行 通算寄付額 7,506,186円

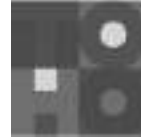


第四北越証券

Daishi Hokuetsu Securities

第四北越証券株式会社

通算寄付額 2,066,313円



すべてを地域のために

東邦銀行

株式会社東邦銀行 通算寄付額 16,453,729円(※)

(※) 尾瀬紀行(とうほう証券様分)を含む。

協賛寄付者のご紹介

※令和7年2月28日現在、五十音順、敬称略



関東電化工業

関東電化工業株式会社 通算寄付額 300,000円



クラブツーリズム株式会社

通算寄付額 2,338,000円

一般財団法人群馬県警察厚生会

通算寄付額 1,400,000円



群馬県ビルメンテナンス協同組合

通算寄付額 2,400,000円

GN 群馬日産自動車株式会社

群馬日産自動車株式会社 通算寄付額 1,200,000円

KDDI株式会社

通算寄付額 756,700円



佐田建設株式会社

佐田建設株式会社 通算寄付額 900,000円



スマーク伊勢崎

通算寄付額 2,000,000円

利根郡信用金庫

利根郡信用金庫 通算寄付額 4,045,390円



株式会社とりせん

通算寄付額 3,078,562円

NICHINEN

株式会社ニチネン 通算寄付額 1,800,000円

パティスリークリエーション
ガトーフェスタハラダ

株式会社原田 通算寄付額 600,000円



ひかり接骨院

通算寄付額 793,000円

その他の寄付者のご紹介

※令和6年10月16日~令和7年2月28日までの寄付者、五十音順、敬称略

河添直樹、小林寧子、鈴木秀博、SOMPOちきゅう倶楽部、殿塚艶子、株式会社ナカヨ、永田雅道、中村浩孝、新潟県魚沼市立須原小学校5年生一同、新潟楽山会、正木浩美

◆◆◆◆匿名・ご芳名掲載辞退の寄付者の皆様にも、心より感謝申し上げます。◆◆◆◆

皆さまからのご寄付の用途について(尾瀬保護財団の主な活動)

皆さまからのご寄付は、旅行会社や登山者への普及啓発活動、ビジターセンターでの自然解説活動、公衆トイレや木道の維持管理、至仏山の環境保全対策、ニホンジカ対策、ツキノワグマとの共生、外来植物対策など、幅広い事業に役立てられます。



入山口啓発活動



至仏山登山道柵立て作業



シカ柵(ニホンジカ侵入防止柵)設置作業



自然解説活動(自然観察会)



木道の柵木打ち作業



特定外来植物(オオハシゴシツウ)駆除作業

2025年もInstagram投稿キャンペーンを実施します!



尾瀬Instagram投稿キャンペーン（#尾瀬フォト2024）にご応募いただいた皆さま、ありがとうございました！

2025シーズンもキャンペーンを実施予定ですので、あなただけの特別な尾瀬の写真を投稿してください！入選された方には素敵な賞品を贈呈します。皆さまのご応募をお待ちしております♪

詳細は当財団ホームページ、公式SNS上でお知らせしますので、どうぞお楽しみに！

◀2024尾瀬Instagram投稿キャンペーン優秀賞作品「池塘の白虹」@mudhony2



クレジットカードで **寄付** ができます!

皆さまからのご支援を
願います!!

手順 ※詳細は当財団HPをご確認ください。★自宅や外出先で、簡単3ステップで寄付ができます!★

① 右の2次元コードを読み取る



② 特設ページ上部の「寄付で尾瀬を支援する」をタップ

③ 必要事項を入力



友の会コーナー

「友の会」は、豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

このたび、当財団「友の会」では、会運営の円滑化を目的に、新規加入・会員更新時期を年1回（各年1月1日）に変更し、本実施は令和9年1月から開始させていただきます。なお、それまでの期間は移行期間とし、会員期間を延長する等の特例を設けます。会員の皆様に対しましては、移行期間中の詳細について次回更新時にお知らせするとともに、当財団ホームページ内の「友の会コーナー」でもご覧いただけます。

※新規入会をお申し込みの方は、令和7年度の申込期間を令和7年9～11月までとさせていただきます、令和8年1月より有効な会員証をお送りいたします。

《年会費》

個人	個人会員	1口 2,000円
	家族会員 (家族会員と同居の家族)	1口 1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口 1,500円
	賛助会員 (企業・団体等)	1口 10,000円
	特別会員 (企業等)	3年に渡る30万円以上の寄付または1回100万円以上の寄付

《加入・更新について》

財団ホームページでご確認ください。
<https://oze-fnd.or.jp/ozg/fc/>



《特典について》

友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただいております。

- 友の会会員バッジ進呈(初回加入時のみ)、各種資料送付
- 財団機関誌：郵送にてお送りします
- 宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引
(休日、祝祭日前等の除外日があります)
- 尾瀬周辺施設利用料割引：入浴料割引

編集後記



ここ数年小雪が続いていましたが、今冬は災害救助法が適用される自治体も出るほどの大雪でした。雪下し作業で尾瀬入りした関係者からは、厚い雪で覆われて入口が埋まり、どこが窓かわからなくなった山小屋やビジターセンターの様子が共有されています。前橋市街も3月に入って14センチの積雪を記録しました。今年は梅も菜の花も少し遅め。これだけ雪が多いと、尾瀬の花も期待できそう。あと2か月足らずで今年の尾瀬が始まります！（佐々木）

スマートフォンサイト



OZE Mobile 情報配信中

- 緊急情報
- お知らせ
- ライブ配信 など

尾瀬情報配信中



X



Instagram

尾瀬の情報を
随時発信します

尾瀬保護財団note



尾瀬に関する
さまざまな
記事を投稿します